

平成28年度病床機能報告の結果について

平成28年度病床機能報告の結果の概要について

- 本集計は、平成28年度病床機能報告対象となる医療機関14,254施設（病院7,339、診療所6,915）のうち、平成29年2月17日までに報告があったものを対象に集計。
- 集計項目によって、エラーデータの影響で集計対象数が変動することに留意が必要。

医療機関別提出状況（平成29年2月17日時点）

報告対象医療機関数	14,254
うち、病院	7,339
うち、有床診療所	6,915

報告様式1：病床機能、職員数、患者数など
報告様式2：レセプトデータ

【病院、有床診療所】

		施設数	割合
報告様式1	有り	13,751	96.5%
	無し	503	3.5%

		施設数	割合
報告様式2	有り	13,164	92.4%
	無し	1,090	7.6%

【病院】

報告様式1	有り	7,236	98.6%
	無し	103	1.4%

報告様式2	有り	7,005	95.4%
	無し	334	4.6%

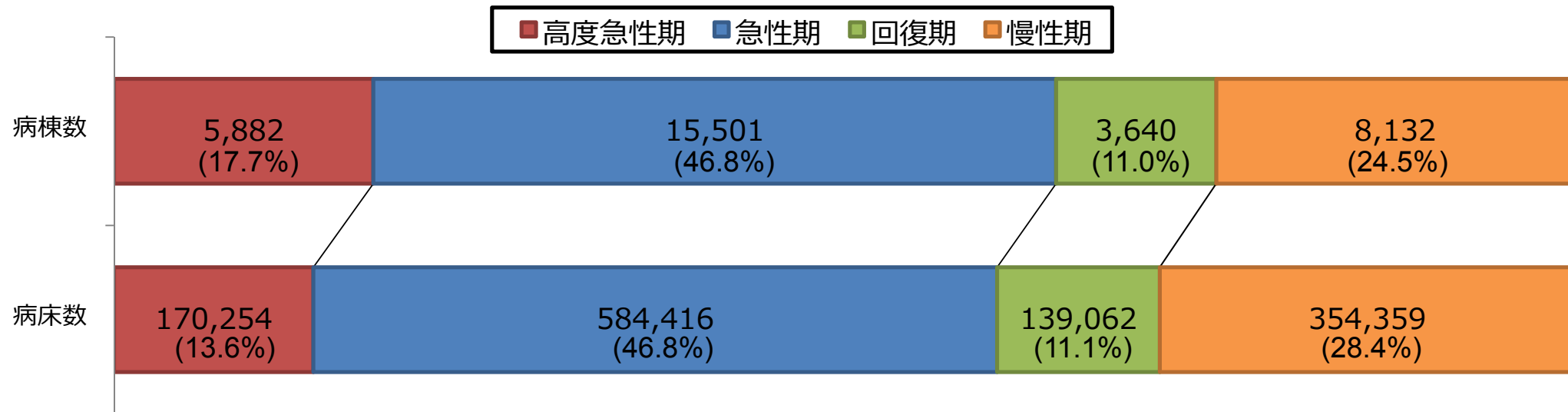
【有床診療所】

報告様式1	有り	6,515	94.2%
	無し	400	5.8%

報告様式2	有り	6,159	89.1%
	無し	756	10.9%

4 機能ごとの病棟数及び病床数について (病院、診療所)

- 高度急性期については、病棟あたりの病床数が他と比べて少ないため、病棟数が占める割合に比べ、病床数が占める割合が低くなっている。

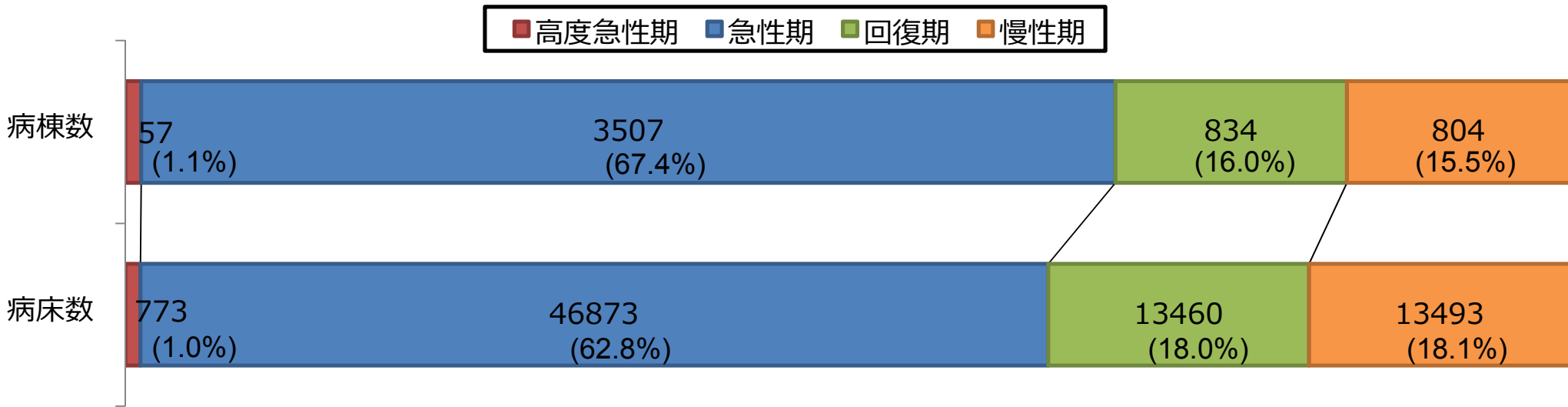


(病院、診療所)	病棟数	(%)	病床数	(%)	平均値
高度急性期	5,882	17.7%	170,254	13.6%	29
急性期	15,501	46.8%	584,416	46.8%	38
回復期	3,640	11.0%	139,062	11.1%	38
慢性期	8,132	24.5%	354,359	28.4%	44

※ 上記データは、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、集計したものの。
エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」「許可病床数記載不備」、「医療機能記載不備（7月）」

4 機能ごとの病棟数及び病床数について (診療所)

- 診療所において、高度急性期機能を担っている施設は1%程度と低い。



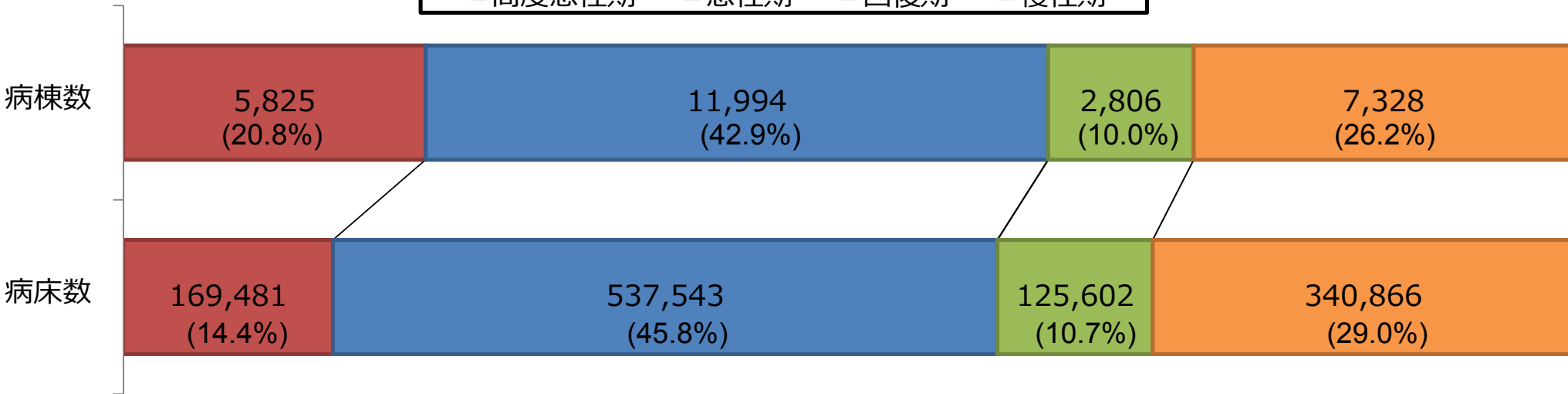
(診療所)	施設数	(%)	病床数	(%)	平均値
高度急性期	57	1.1%	773	1.0%	14
急性期	3,507	67.4%	46,873	62.8%	13
回復期	834	16.0%	13,460	18.0%	16
慢性期	804	15.5%	13,493	18.1%	17

※ 上記データは、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、集計したものの。
エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」「許可病床数記載不備」、「医療機能記載不備（7月）」

4 機能ごとの病棟数及び病床数について (病院)

- 高度急性期については、病棟あたりの病床数が他と比べて少ないため、病棟数が占める割合に比べ、病床数が占める割合が低くなっている。
- 急性期、回復期、慢性期については、病棟あたり病床数の平均、中央値、標準偏差が近い。

■ 高度急性期 ■ 急性期 ■ 回復期 ■ 慢性期

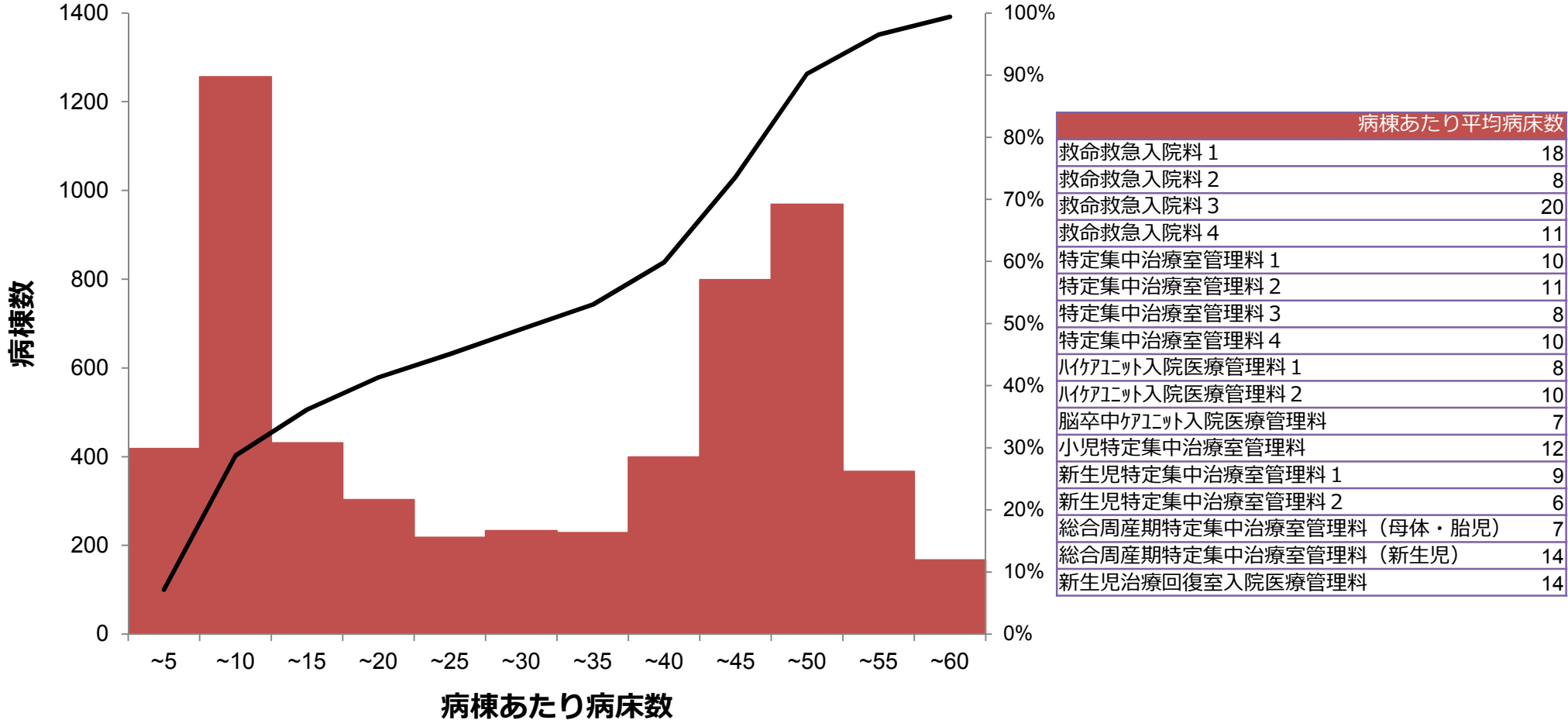


病床機能×許可病床数	(合計)		(病棟あたり病床数)						
	病棟数	病床数	平均値	中央値	標準偏差	最大値	最小値	(+)2SD	(-)2SD
高度急性期	5,825	169,481	29	32	18	95	2	66	-8
急性期	11,994	537,543	45	46	12	258	1	69	21
回復期	2,806	125,602	45	45	11	147	7	67	23
慢性期	7,328	340,866	47	48	13	193	4	72	21
合計	27,953	1,173,492	42						

※ 上記データは、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、集計したものの。
エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」「許可病床数記載不備」、「医療機能記載不備（7月）」

高度急性期の病棟あたり病床数の分布について (病院)

○ 高度急性期と報告している病棟の病床数については、6~10床と46~50床で二峰性を示している。



n=5,825	病床数	平均値	中央値	標準偏差	最大値	最小値	(+)2SD	(-)2SD
高度急性期	169481	29	32	18	95	2	66	-8

※ 上記グラフは、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、5床刻みでヒストグラムを作成し、61床以上を非表示としたもの。
エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」「許可病床数記載不備」、「医療機能記載不備(7月)」

特定の機能を有する病棟における病床機能報告の取扱い

特定入院料等を算定する病棟については、一般的には、次のとおりそれぞれの機能として報告するものとして取り扱う。その他の一般入院料等を算定する病棟については、各病棟の実態に応じて選択する。

高度急性期機能

- 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能

※高度急性期機能に該当すると考えられる病棟の例
救命救急病棟、集中治療室、ハイケアユニット、新生児集中治療室、新生児治療回復室、小児集中治療室、総合周産期集中治療室であるなど、急性期の患者に対して診療密度が特に高い医療を提供する病棟

急性期機能

- 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能

回復期機能

- 急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能。
- 特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能（回復期リハビリテーション機能）。

慢性期機能

- 長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能
- 長期にわたり療養が必要な重度の障害者（重度の意識障害者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能

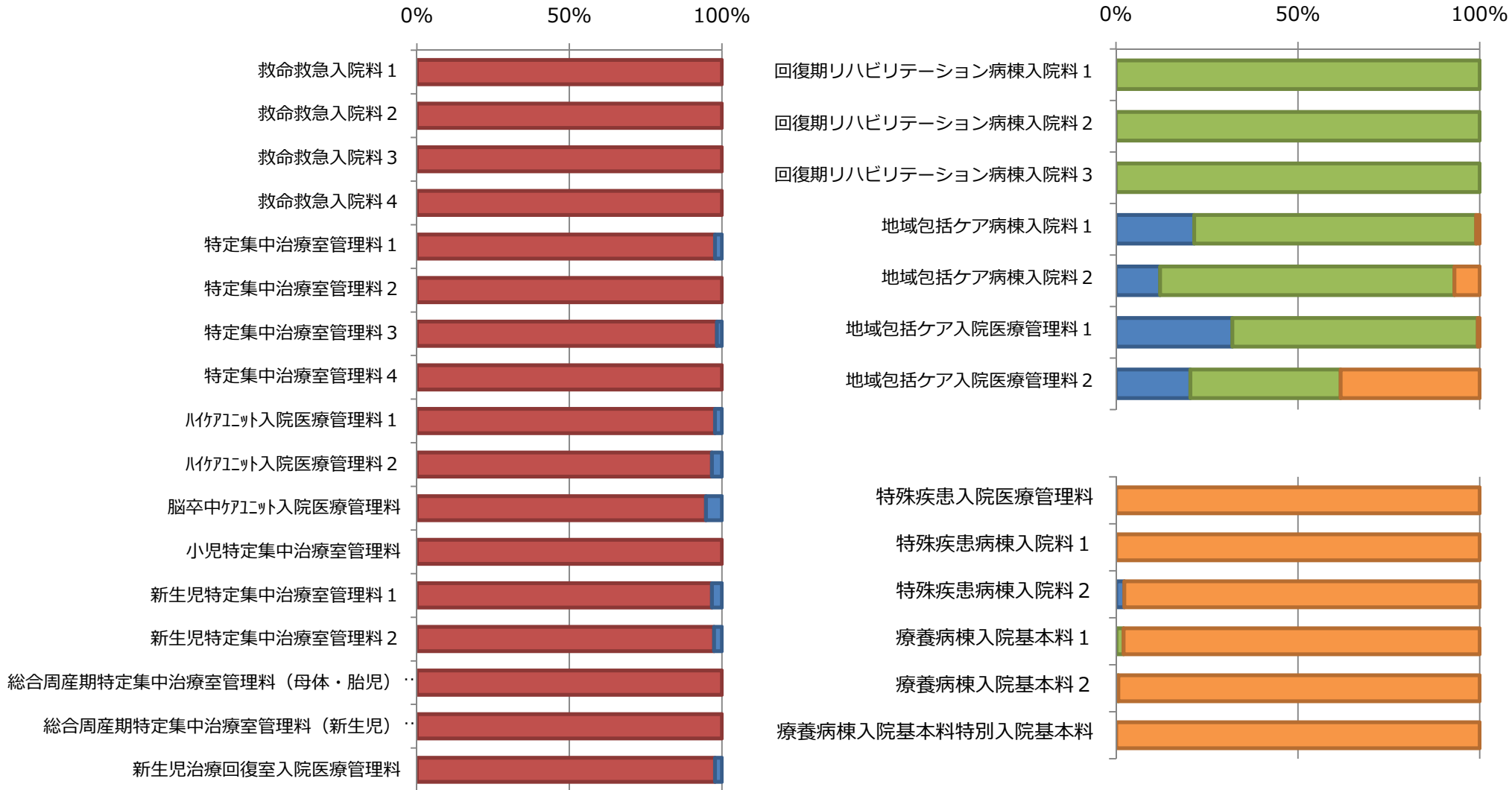
- 救命救急入院料
- 特定集中治療室管理料
- ハイケアユニット入院医療管理料
- 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
- 小児特定集中治療室管理料
- 新生児特定集中治療室管理料
- 総合周産期特定集中治療室管理料
- 新生児治療回復室入院管理料
- 地域包括ケア病棟入院料（※）
- 回復期リハビリテーション病棟入院料
- 特殊疾患入院医療管理料
- 特殊疾患病棟入院料
- 療養病棟入院基本料

※ 地域包括ケア病棟については、当該病棟が主に回復期機能を提供している場合は、回復期機能を選択し、主に急性期機能を提供している場合は急性期機能を選択するなど、個々の病棟の役割や入院患者の状態に照らして、医療機能を適切に選択。

特定入院料等届出病床ごとの医療機能について

○ 特定の機能を有する病棟における病床機能報告については、概ね取扱いのとおりとなっている。

■ 高度急性期機能 ■ 急性期機能 ■ 回復期機能 ■ 慢性期機能



※ 上記データは、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、集計したものの。
 エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」「許可病床数記載不備」、「医療機能記載不備（7月）」

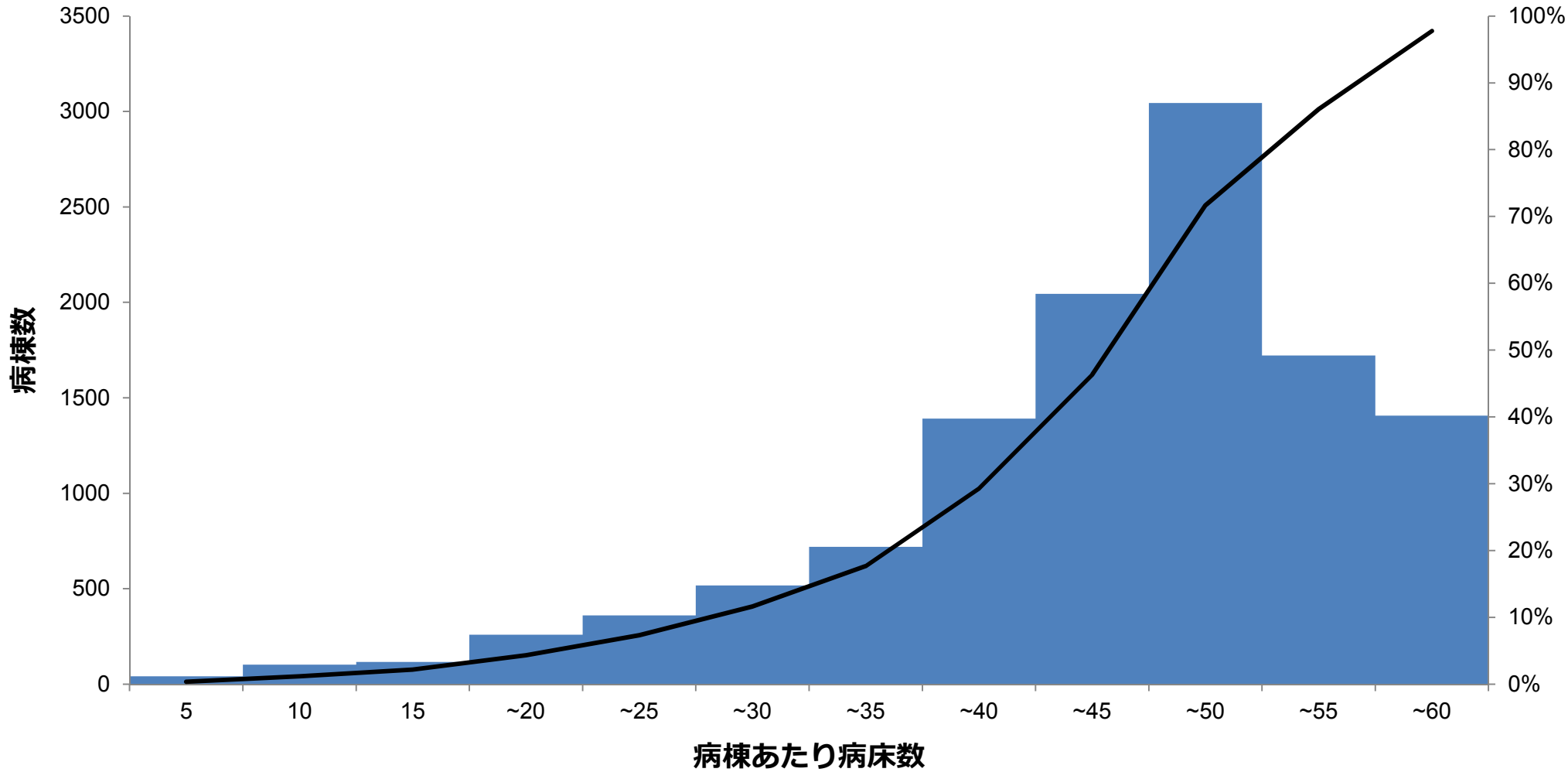
病床機能の組み合わせパターンによる病院分類について



病床機能による病院分類について

病院タイプ		病院数	① 高度急性期許可病床数				4機能合計 病床数	平均許可病 床数
			② 急性期許 可病床数	③ 回復期許 可病床数	④ 慢性期許 可病床数			
A	高急回慢	86	3193	16375	5567	4543	29678	345
B	高急回	195	9777	43931	10250	0	63958	328
C	高急慢	62	5245	14264	0	3494	23003	371
D	高急	554	68130	154286	0	0	222416	401
E	高回慢	2	373	0	109	108	590	295
F	高回	9	3197	0	453	0	3650	406
G	高慢	7	4240	0	0	190	4430	633
H	高のみ	128	74406	0	0	0	74406	581
I	急回慢	561	0	45973	31029	40707	117709	210
J	急回	539	0	59708	30321	0	90029	167
K	急慢	1126	0	73428	0	72551	145979	130
L	急のみ	1454	0	127064	0	0	127064	87
M	回慢	398	0	0	24729	39463	64192	161
N	回のみ	277	0	0	22893	0	22893	83
O	慢のみ	1731	0	0	0	177721	177721	103
合計		7129	168561	535029	125351	338777	1167718	10

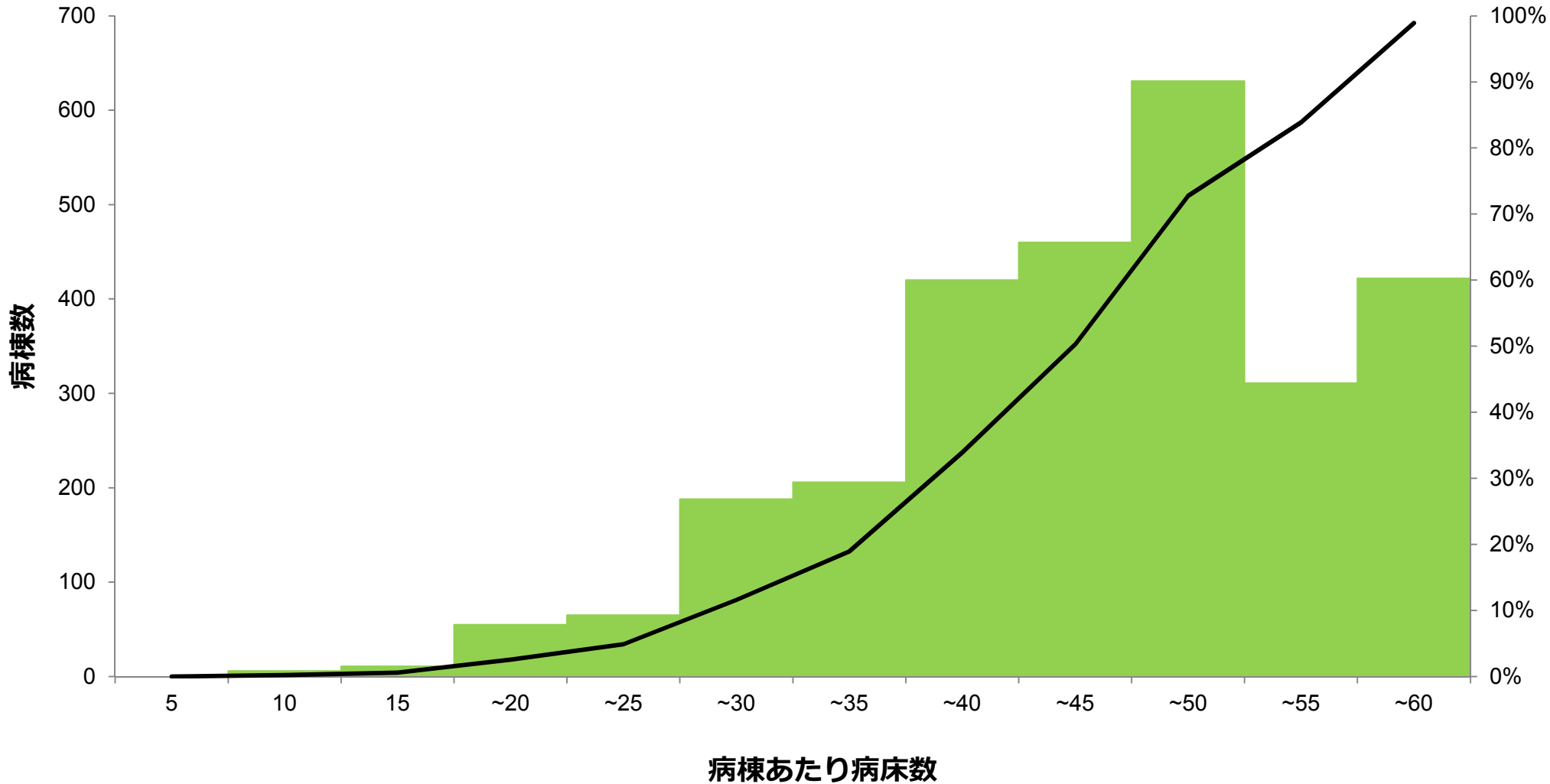
急性期の病棟あたり病床数の分布について (病院)



n=11,994	病床数	平均値	中央値	標準偏差	最大値	最小値	(+)2SD	(-)2SD
急性期	537543	45	46	12	258	1	69	21

※ 上記グラフは、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、5床刻みでヒストグラムを作成し、61床以上を非表示としたもの。
エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」「許可病床数記載不備」、「医療機能記載不備（7月）」

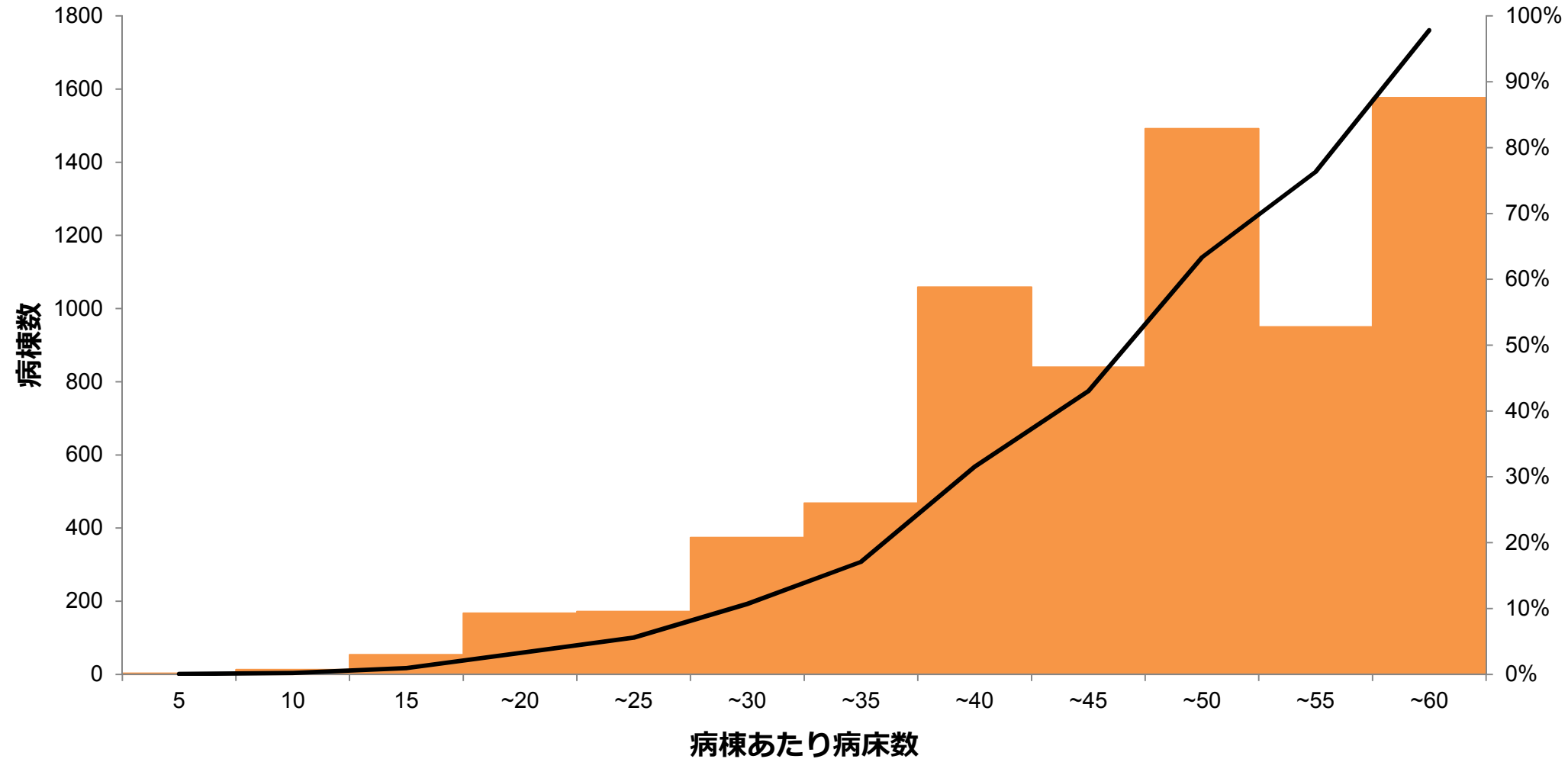
回復期の病棟あたり病床数の分布について (病院)



n=2,806	病床数	平均値	中央値	標準偏差	最大値	最小値	(+)2SD	(-)2SD
回復期	125602	45	45	11	147	7	67	23

※ 上記グラフは、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、5床刻みでヒストグラムを作成し、61床以上を非表示としたもの。
エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」「許可病床数記載不備」、「医療機能記載不備（7月）」

慢性期の病棟あたり病床数の分布について (病院)

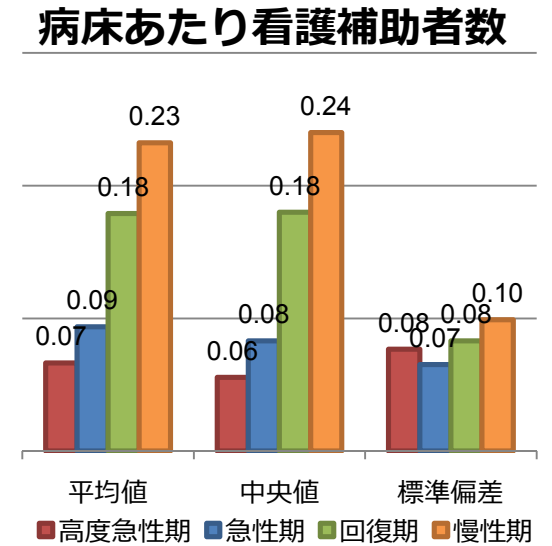
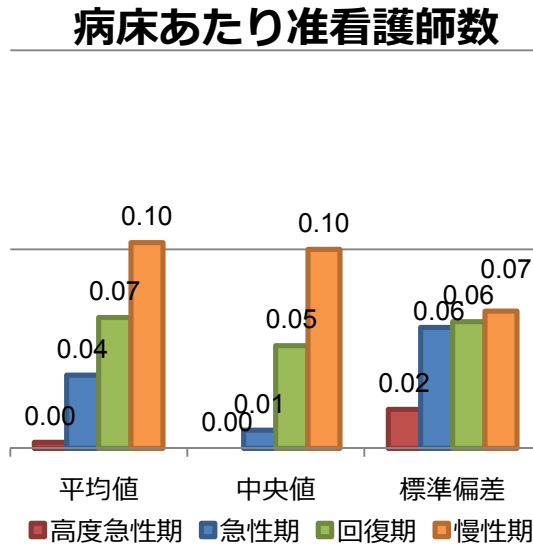
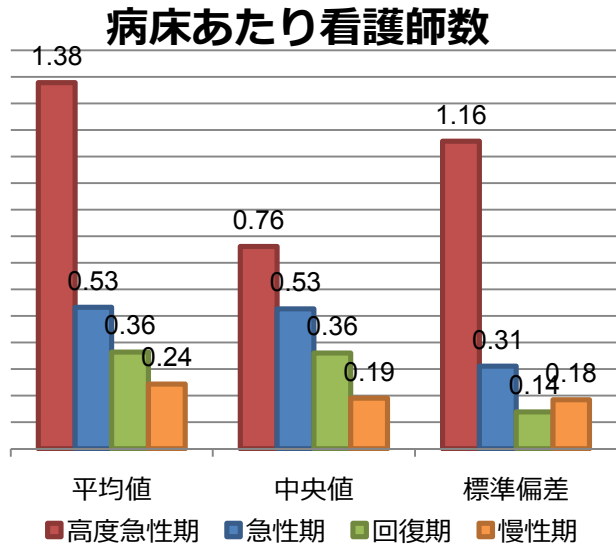


n=7,328	病床数	平均値	中央値	標準偏差	最大値	最小値	(+)2SD	(-)2SD
慢性期	340866	47	48	13	193	4	72	21

※ 上記グラフは、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、5床刻みでヒストグラムを作成し、61床以上を非表示としたもの。
エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」「許可病床数記載不備」、「医療機能記載不備(7月)」

4 機能ごとの病床あたり看護職員数について（病院）

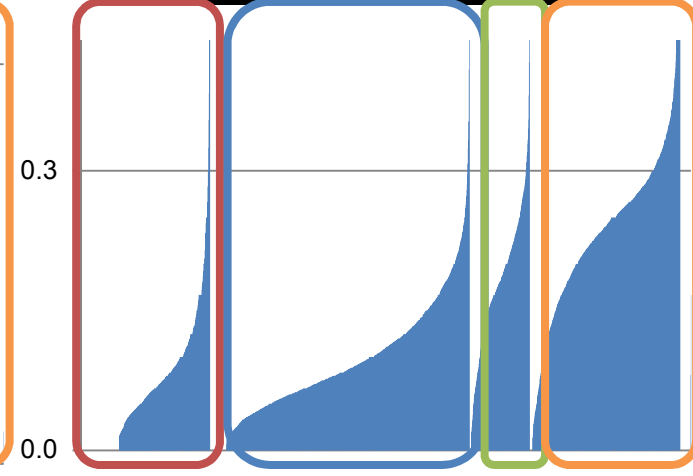
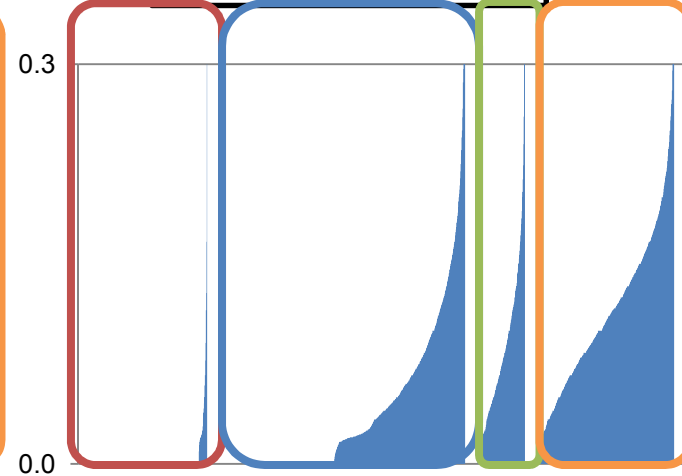
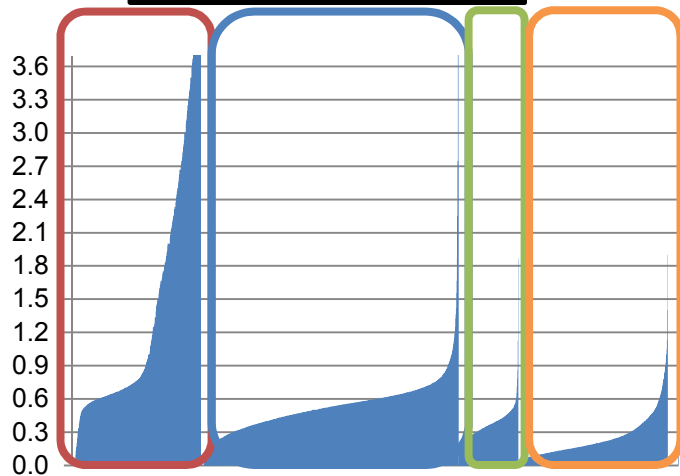
- 病床機能ごとにそれぞれの病床あたり各看護職員数の配置状況には傾斜が認められる。
- 同じ機能において、それぞれの病床あたり各看護職員数の配置にばらつきが認められる。



病床機能ごと病棟ごとの
病床あたり看護師数

病床機能ごと病棟ごとの
病床あたり准看護師数

病床機能ごと病棟ごとの
病床あたり看護補助者数

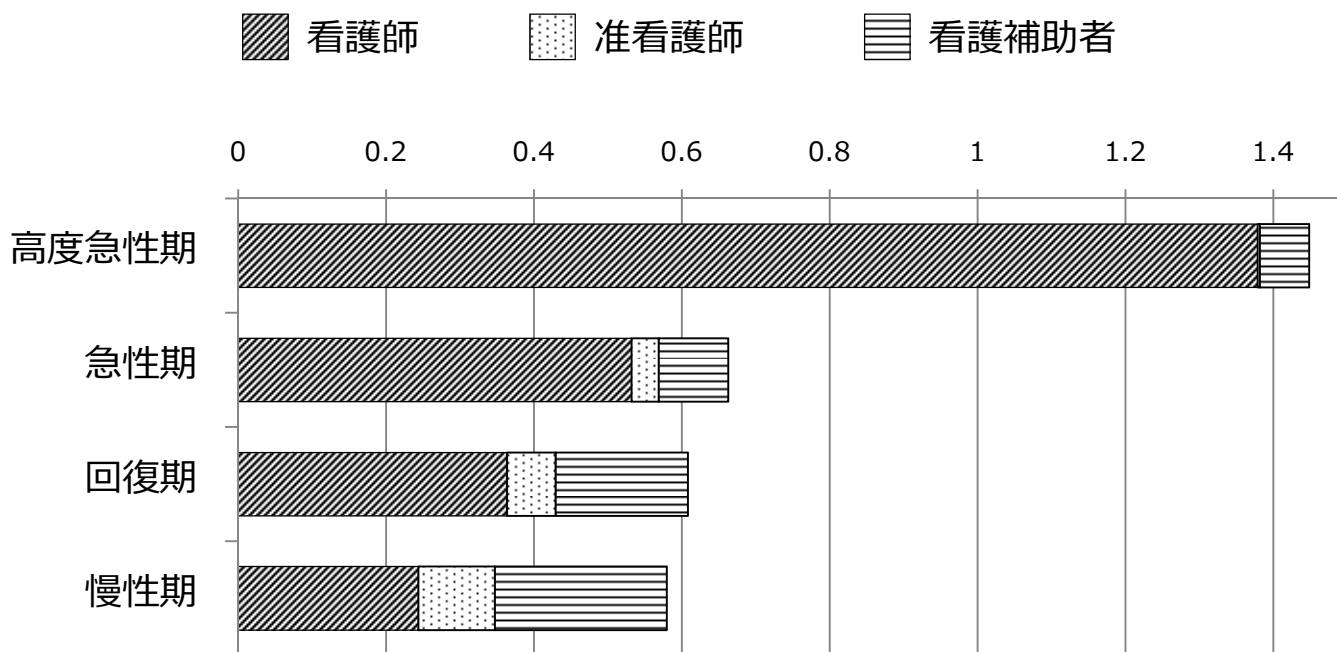


横軸：それぞれの病床機能ごとに、病棟の病床あたり職員数を左から少ない順に並べたもの。

※ 上記表は、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、集計したものです。エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」、「医療機能記載不備（7月）」、「職員数の記載不備」

4 機能ごとの病床あたり看護職員総数について（病院）

- 病床機能ごとの病床あたりそれぞれの看護職員数（平均値）を合計すると、高度急性期を報告した病棟で看護職員総数が最も多く、他の3機能を報告した病棟では、大きな差は認められない。
- 高度急性期については、特定入院料を算定する病棟において配置されている看護師数が多いことにより、全体として多くなっていると考えられる。



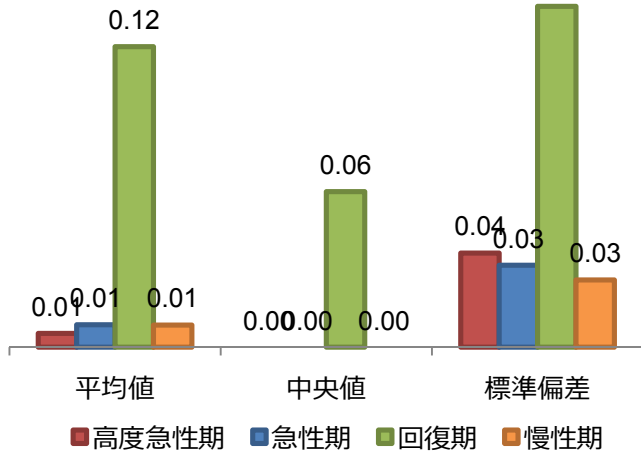
病床あたり平均看護職員総数	
救命救急入院料 1	2.0
救命救急入院料 2	3.4
救命救急入院料 3	2.1
救命救急入院料 4	3.4
特定集中治療室管理料 1	3.4
特定集中治療室管理料 2	3.4
特定集中治療室管理料 3	3.3
特定集中治療室管理料 4	3.4
ハイアユニット入院医療管理料 1	1.8
ハイアユニット入院医療管理料 2	1.7
脳卒中ハイアユニット入院医療管理料	1.9
小児特定集中治療室管理料	3.0
新生児特定集中治療室管理料 1	2.2
新生児特定集中治療室管理料 2	2.1
総合周産期特定集中治療室管理料（母体・胎児）	0.4
総合周産期特定集中治療室管理料（新生児）	2.1
新生児治療回復室入院医療管理料	1.1

※ 上記表は、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、集計したものの。エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」、「医療機能記載不備（7月）」、「職員数の記載不備」

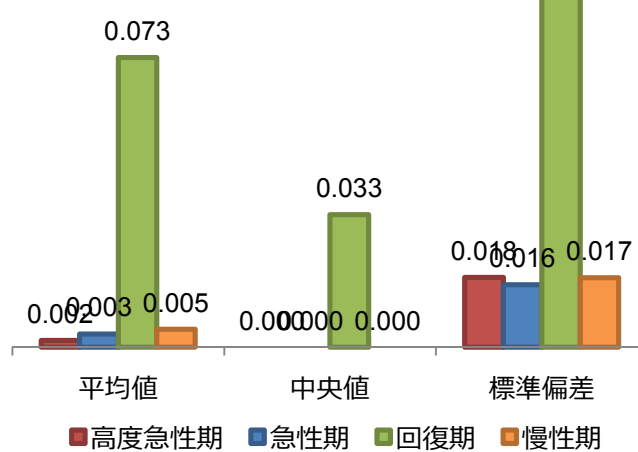
4 機能ごとのリハビリ職員数について（病院）

- リハビリ職員については、全ての職種において回復期病棟に多く配置されている。
- 回復期病棟以外においては、一部の病棟で回復期病棟と同様に配置されている。

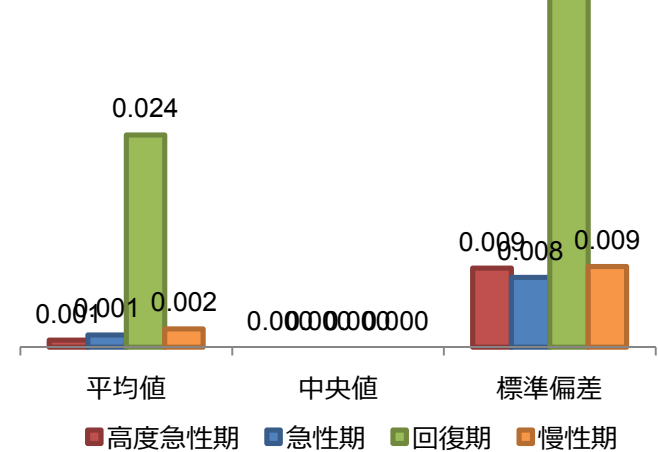
理学療法士数



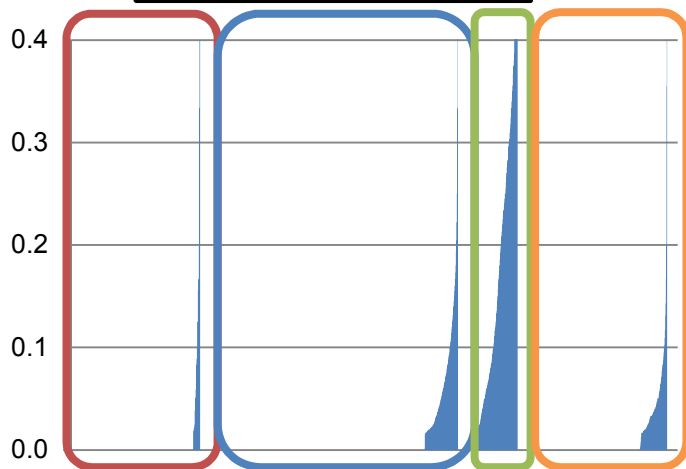
作業療法士数



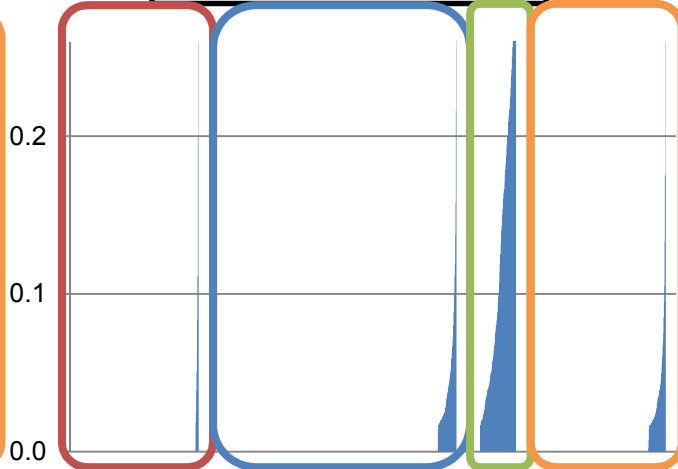
言語聴覚士数



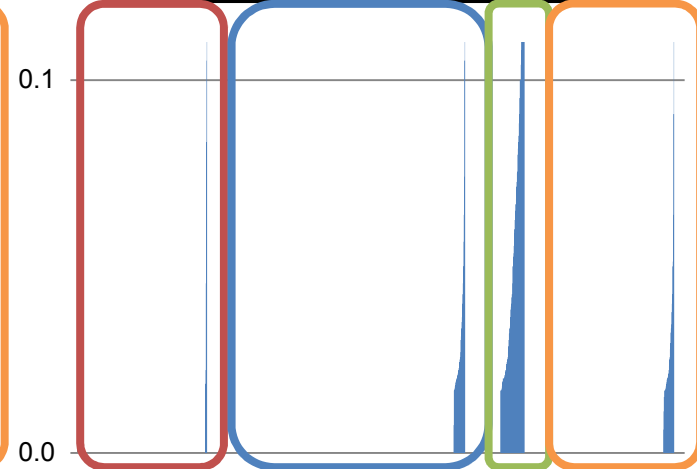
病床機能ごと病棟ごとの
病床あたり理学療法士数



病床機能ごと病棟ごとの
病床あたり作業療法士数



病床機能ごと病棟ごとの
病床あたり言語聴覚士数



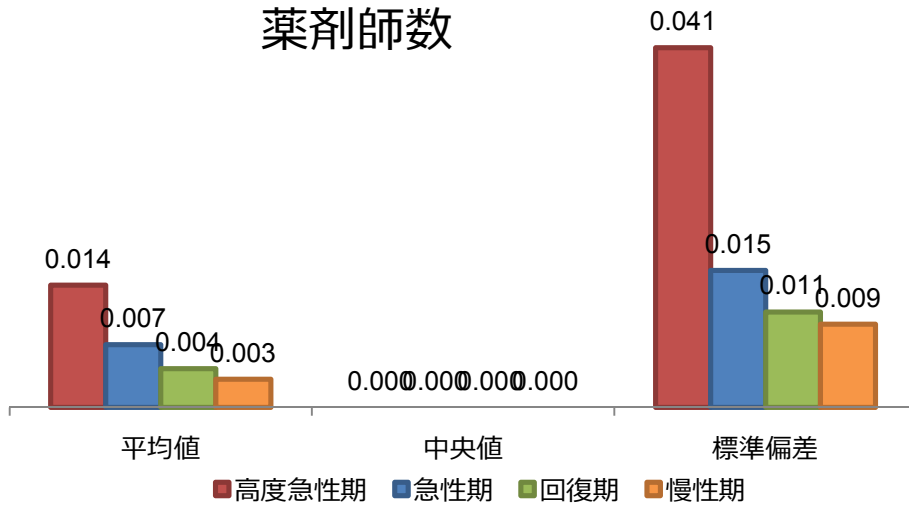
横軸：それぞれの病床機能ごとに、病棟の病床あたり職員数を左から少ない順に並べたもの。

※ 上記表は、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、集計したものです。エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」、「医療機能記載不備（7月）」、「職員数の記載不備」

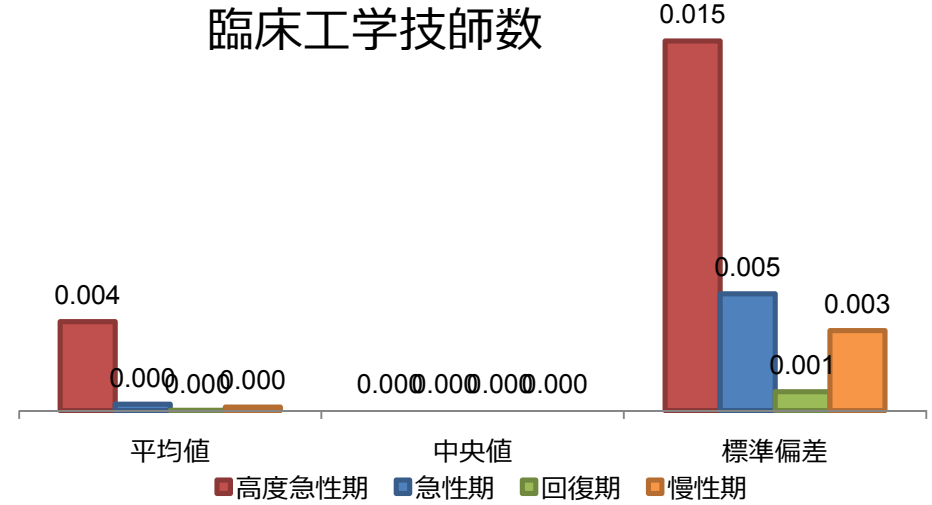
4 機能ごとのその他職員数について（病院）

- 薬剤師については、どの機能においても一部の病棟で配置されている。
- 臨床工学技士については、高度急性期・急性期のごく一部の病棟で配置されている。

薬剤師数

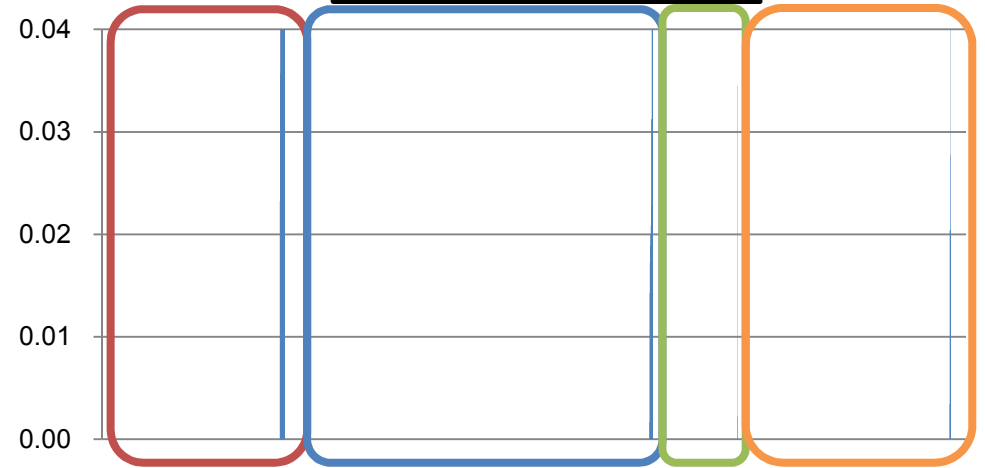
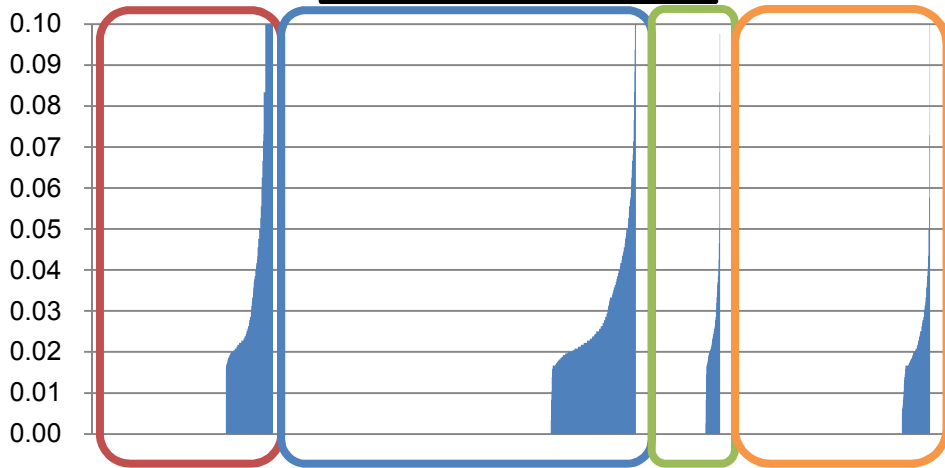


臨床工学技師数



病床機能ごと病棟ごとの 病床あたり薬剤師数

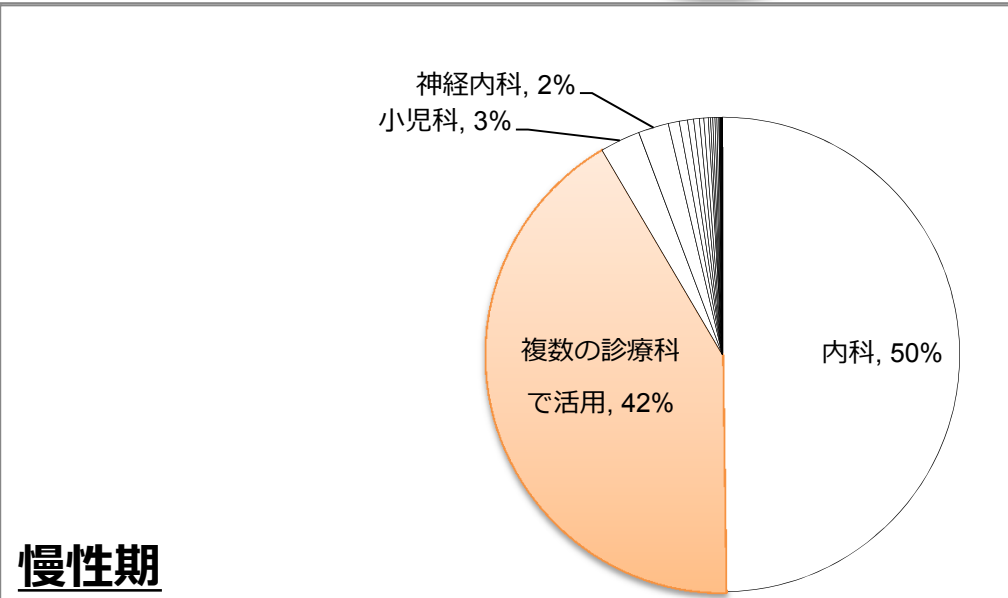
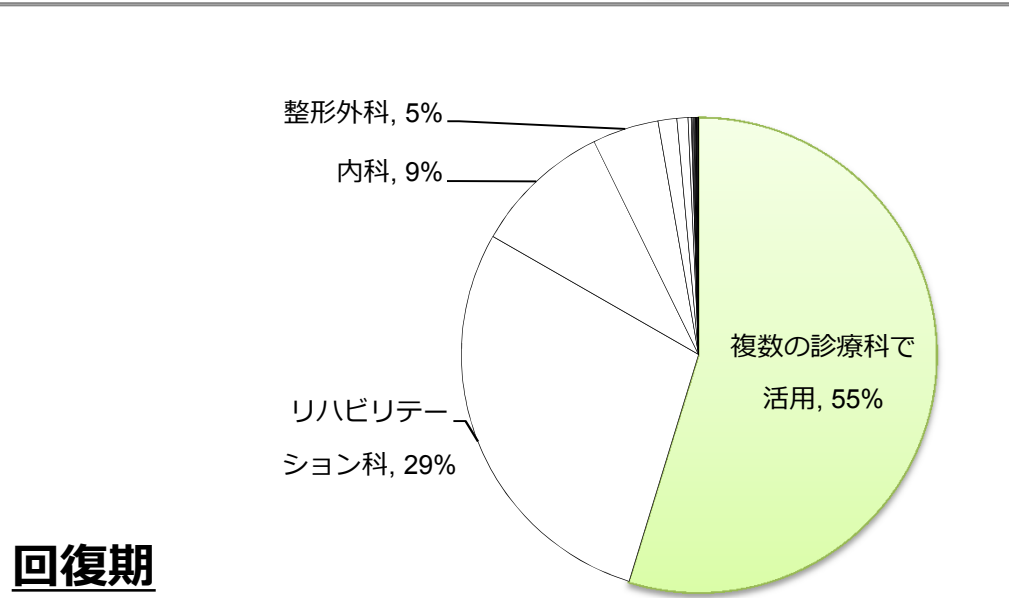
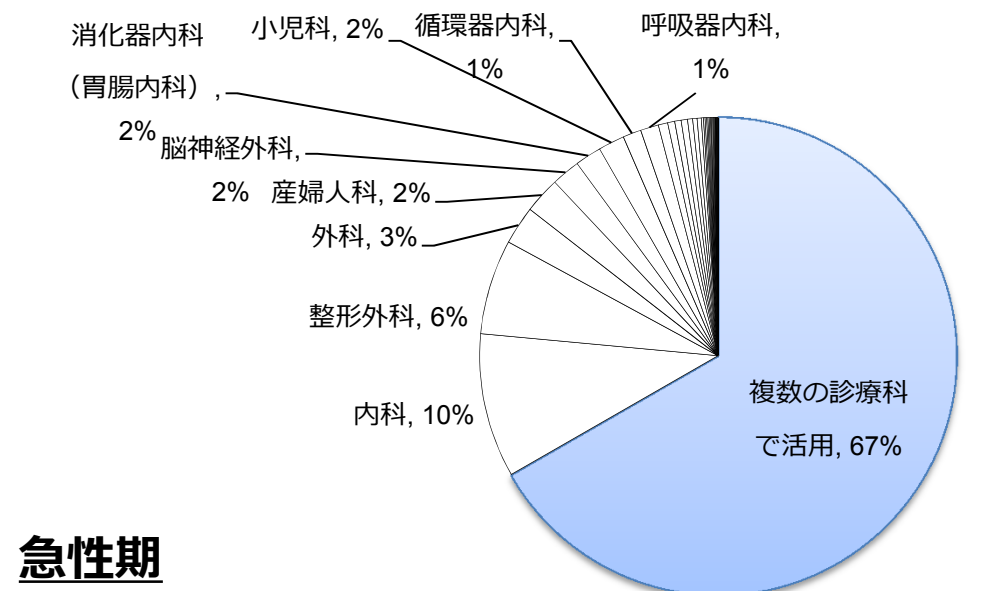
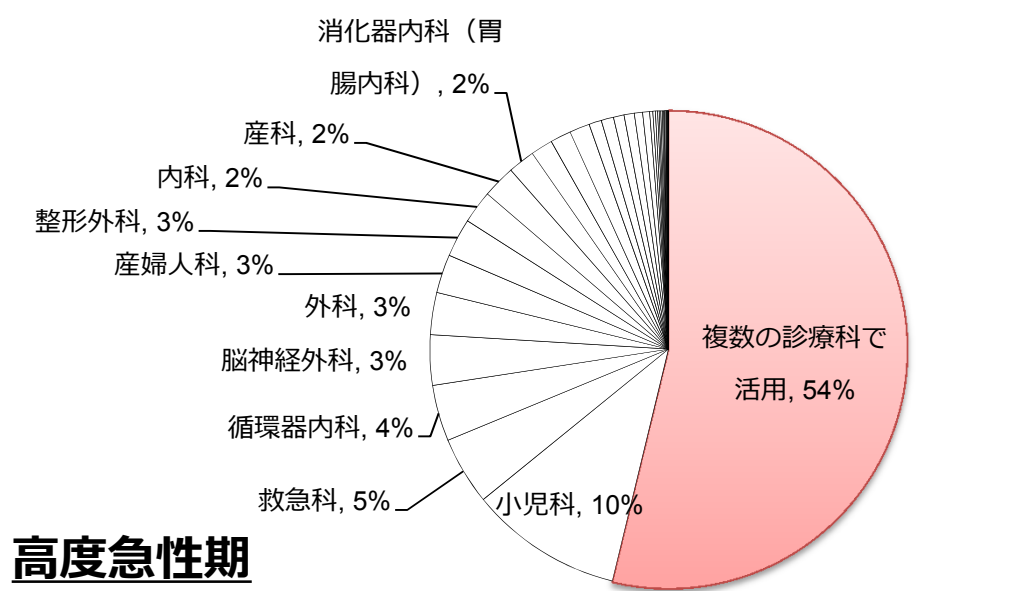
病床機能ごと病棟ごとの 病床あたり臨床工学技師数



横軸：それぞれの病床機能ごとに、病棟の病床あたり職員数を左から少ない順に並べたもの。

4 機能ごとの主とする診療科について（病院）

○ 主とする診療科については、大半の病棟で「複数の診療科で活用」が選択されている。



※ 上記表は、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、集計したものの。エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」、「医療機能記載不備（7月）」、「診療科の記載不備」

高度急性期病棟の「複数の診療科」について（病院）

- 病床機能報告において、医療機関は当該病棟の「主な診療科」を報告することとなっており、その中で「複数の診療科で活用」を選択した際には、当該病棟の患者を多く診ている順に上位3つまでを選択し、報告している。
- **高度急性期機能**を報告している病棟では、上位3つそれぞれの中で数が多い上位10の診療科について、7の診療科が同じものが選択されている。

1位	病棟数
循環器内科	579
脳神経外科	294
内科	290
外科	284
心臓血管外科	194
消化器外科（胃腸外科）	146
消化器内科（胃腸内科）	144
呼吸器内科	142
小児科	138
整形外科	120

2位	病棟数
心臓血管外科	380
脳神経外科	308
循環器内科	284
外科	282
内科	178
消化器内科（胃腸内科）	153
神経内科	149
消化器外科（胃腸外科）	123
呼吸器外科	113
整形外科	108

3位	病棟数
脳神経外科	249
外科	208
内科	153
循環器内科	127
整形外科	119
心臓血管外科	115
消化器内科（胃腸内科）	105
救急科	84
呼吸器内科	83
呼吸器外科	81

※ 上記表は、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、集計したものの。
エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」、「医療機能記載不備（7月）」、「診療科の記載不備」

急性期病棟の「複数の診療科」について（病院）

- 病床機能報告において、医療機関は当該病棟の「主な診療科」を報告することとなっており、その中で「複数の診療科で活用」を選択した際には、当該病棟の患者を多く診ている順に上位3つまでを選択し、報告している。
- **急性期機能**を報告している病棟では、上位3つそれぞれの中で数が多い上位10の診療科について、8の診療科が同じものが選択されている。

1位	病棟数
内科	2566
整形外科	1031
外科	896
循環器内科	524
消化器内科（胃腸内科）	485
脳神経外科	435
呼吸器内科	337
産婦人科	246
泌尿器科	224
小児科	216

2位	病棟数
外科	1186
整形外科	914
内科	820
消化器内科（胃腸内科）	505
循環器内科	478
脳神経外科	420
泌尿器科	415
呼吸器内科	335
小児科	314
眼科	276

3位	病棟数
整形外科	846
内科	648
外科	570
眼科	383
消化器内科（胃腸内科）	346
泌尿器科	306
脳神経外科	281
循環器内科	250
耳鼻咽喉科	236
小児科	193

※ 上記表は、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、集計したものの。
エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」、「医療機能記載不備（7月）」、「診療科の記載不備」

回復期病棟の「複数の診療科」について（病院）

- 病床機能報告において、医療機関は当該病棟の「主な診療科」を報告することとなっており、その中で「複数の診療科で活用」を選択した際には、当該病棟の患者を多く診ている順に上位3つまでを選択し、報告している。
- **回復期機能**を報告している病棟では、上位3つそれぞれの中で数が多い上位10の診療科について、9の診療科が同じものが選択されている。

1位	病棟数
内科	586
整形外科	457
リハビリテーション科	175
脳神経外科	152
神経内科	50
外科	42
循環器内科	21
呼吸器内科	18
消化器内科（胃腸内科）	9
小児科	6

2位	病棟数
整形外科	472
内科	263
脳神経外科	198
外科	159
リハビリテーション科	126
神経内科	100
循環器内科	54
呼吸器内科	45
消化器内科（胃腸内科）	33
腎臓内科	17

3位	病棟数
整形外科	223
外科	192
内科	177
リハビリテーション科	139
脳神経外科	92
循環器内科	74
神経内科	59
消化器内科（胃腸内科）	43
呼吸器内科	33
泌尿器科	21

※ 上記表は、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、集計したものの。
エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」、「医療機能記載不備（7月）」、「診療科の記載不備」

慢性期病棟の「複数の診療科」について（病院）

- 病床機能報告において、医療機関は当該病棟の「主な診療科」を報告することとなっており、その中で「複数の診療科で活用」を選択した際には、当該病棟の患者を多く診ている順に上位3つまでを選択し、報告している。
- **慢性期機能**を報告している病棟では、上位3つそれぞれの中で数が多い上位10の診療科について、7の診療科が同じものが選択されている。

1位	病棟数
内科	2333
神経内科	114
外科	101
整形外科	99
小児科	70
脳神経外科	65
呼吸器内科	61
循環器内科	60
腎臓内科	49
リハビリテーション科	30

2位	病棟数
外科	695
整形外科	388
内科	277
リハビリテーション科	276
循環器内科	260
神経内科	202
脳神経外科	184
消化器内科（胃腸内科）	169
呼吸器内科	164
小児科	116

3位	病棟数
整形外科	579
リハビリテーション科	330
外科	285
消化器内科（胃腸内科）	170
脳神経外科	150
循環器内科	120
神経内科	104
内科	103
腎臓内科	60
泌尿器科	45

※ 上記表は、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、集計したものの。
エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」、「医療機能記載不備（7月）」、「診療科の記載不備」

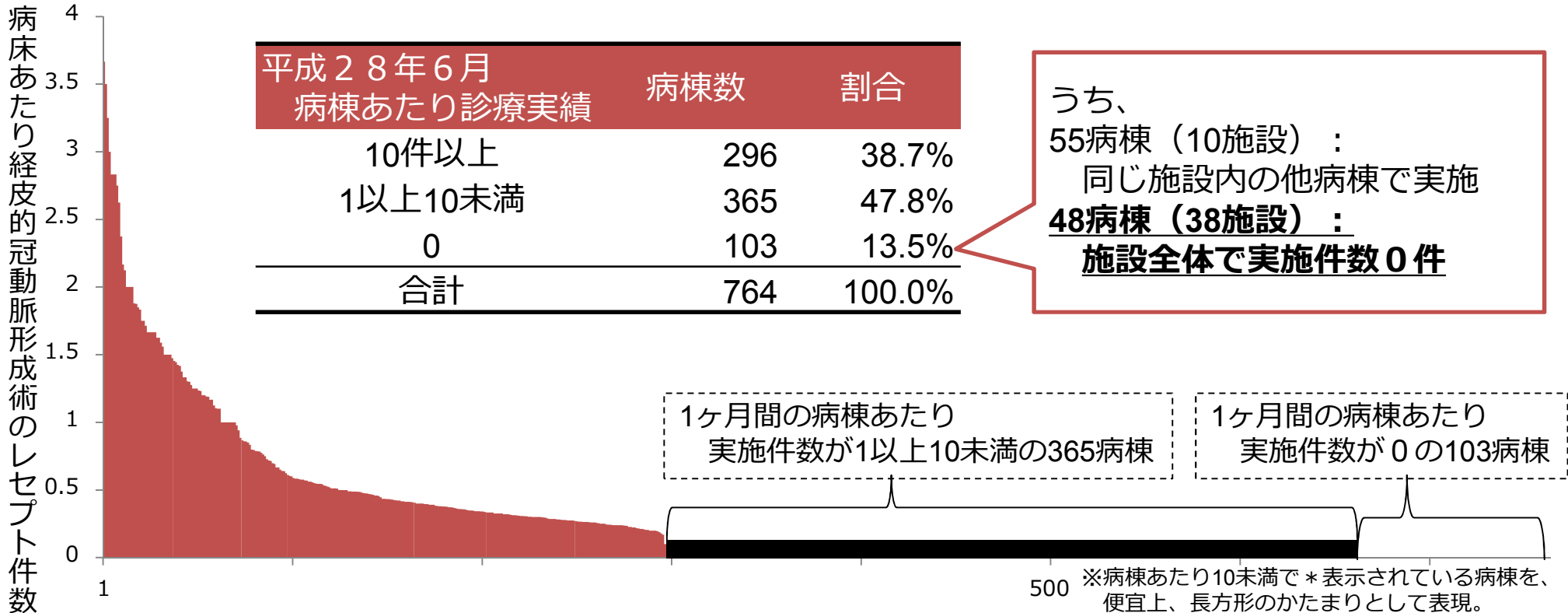
病棟ごとの提供されている医療の内容について (病院、診療所)

精査中

- グラフは、**高度急性期機能**を報告している病棟で、『循環器内科』もしくは『複数の診療科で活用(うち、上位1位に『循環器内科』を選択)』を選択している病棟において、『病床あたり経皮的冠動脈形成術のレセプト件数』を多い順に並べたもの。全764病棟(508施設)のうち、103病棟(48施設)が実施件数0件となっている。

注) 当該病棟で実績が無い場合であっても、当該施設の他の病棟で実施されている場合がある。

- 実施件数0件の103病棟(84施設)のうち、施設全体における実施件数が0件であるのは48病棟(38施設)であった。



※ 上記グラフは、平成28年度病床機能報告において、以下のエラーを除外し、集計したものの。
エラー：「報告対象外」、「病院/有床診療所相違」、「病床数の記載不備」、「医療機能記載不備(7月)」、「診療科の記載不備」

平成28年度厚生労働科学研究

病床機能の分化・連携や病床の効率的利用等のために必要となる実施可能な施策に関する研究

研究代表者：今村知明（奈良県立医科大学健康政策医学講座）

分担研究班

福岡県の病床機能報告データを用いた病床機能選択定量基準作成のための探索的分析

分担研究者：松田晋哉（産業医科大学医学部公衆衛生学教室）

研究協力者：藤森健司（東北大学大学院医学系研究科公共健康医学講座医療管理学分野）、
伏見清秀（東京医科歯科大学大学院医療政策情報学分野）、石川ベンジャミン
光一（国立がん研究センター社会と健康研究センター臨床経済研究室）

方法

データ：平成28年度の福岡県の病床機能報告データにおける、各病棟の算定している診療行為と入退院患者の情報

方法：各病棟が算定している入院基本料等や診療行為等と、4つの病床機能区分のうちどの機能との関連が強いかについて、統計学的に分析を行った。

病棟ごとの病床機能と医療の内容に関する分析について②

結果：全体の平均に対する比が3以上のものについて、病床機能別にみると以下のような特徴がみられた。

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
入院基本料・特定入院料等	特定機能病院一般病棟入院基本料 救命救急入院料 特定集中治療室管理料(ICU) ハイケアユニット入院医療管理料(HCU) 脳卒中ケアユニット入院医療管理料(SCU) 新生児特定集中治療室管理料(NICU) 総合周産期特定集中治療室管理料	○ 急性期については、特徴的なものはなかった。	回復期病棟リハビリテーション病棟入院料 地域包括ケア病棟入院料	療養病棟入院基本料 障害者施設等7対1入院基本料 障害者施設等10対1入院基本料 障害者施設等13対1入院基本料 障害者施設等15対1入院基本料 障害者施設等特定入院基本料 特殊疾患病棟入院料
診療行為	全身麻酔の手術 人工心肺を用いた手術 胸・腹腔鏡下手術 悪性腫瘍手術 脳血管内手術 経皮的脳血管形成術 経皮的選択的脳血栓・血栓溶解術 経皮的脳血管ステント留置術 経皮的冠動脈形成術 経皮的冠動脈ステント留置術（急性心筋梗塞・不安定狭心症に対するもの） 救急搬送診療料 観血的肺動脈圧測定 持続緩除式血液濾過 大動脈バルーンパンピング法 経皮的心肺補助法 人工心肺 血漿交換療法 吸着式血液浄化法 夜間休日救急搬送医学管理料 精神科疾患患者等受入加算 人工呼吸 周術期口腔機能管理後手術加算	○ 急性期については、特徴的なものはなかった。	救急・在宅等支援病床初期加算及び有床診療所一般病床初期加算 リハビリテーション充実加算 休日リハビリテーション提供体制加算 入院時訪問指導加算（リハビリテーション総合計画評価料）	障害児（者）リハビリテーション料 褥瘡評価実施加算 特殊疾患入院施設管理加算 超重症児（者）入院診療加算・準超重症児（者）入院診療加算

平成28年度病床機能報告結果について

<結果より分かったこと>

- 特定の機能を有する病棟における病床機能報告の取扱いについては、医療機関の選択にばらつきが少なくなってきている。
- 医療機関が病床機能を選択する際、病院全体として連続性を欠いていた（急性期機能と慢性期機能を選択し、回復期機能を有していないなど）、単一の機能のみを選択したり（高度急性期のみを選択）するといった報告もあった。
- 同じ病床機能を選択し、同じ診療科であっても、診療実績に差が認められた。

<今後の方向性について>

- 病院単位でみた場合に、どの病棟の組み合わせで選択しているのかについて、さらなる分析が必要ではないか。
- 病棟ごとの分析については、どの機能を選択しているのか、どの診療科を主たる診療科としているのか、どのような診療実績となっているのか、分析が必要ではないか。